



東京藝術大学美術学部絵画科

日本画

Tokyo university of the Arts
Japanese Paintings

教員

教授

齋藤 典彦
吉村 誠司
植田 一穂
海老 洋

准教授

宮北 千織
高島 圭史

助教

松岡 歩

テクニカル インストラクター

長澤 耕平
川崎 麻央
山田 雄貴

教育研究助手

杉山 佳
岩谷 晃太
古山 結
椎野 倫奈
角谷 紀章
菊池 玲生
齋藤 愛未

美術学部 アドミッションポリシー

美術学部では、ディプロマ・ポリシーに適う人材を選抜するために、大学入学共通テストに加え、個別学力検査を行っています。大学入学共通テストにおいては、入学後に必要とされる知識のレベルを判定し、個別学力検査においては、入学後の専門教育を行う上で必要な能力を審査する実技試験等を実施しています。この個別学力検査では、技能に加え創造性や表現力等を審査しますが、実施にあたっては各科および専攻の特性を最大限に尊重した内容としています。

美術学部を志望する受験生には、主体的かつ継続的に技能や表現力を向上させる努力とともに、創造性を高めるための幅広い分野の学習を期待しています。

日本画専攻の入試について

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻の入試選抜は、大学入学共通テスト、本学が実施する実技試験、出身学校長から提出された調査書の各資料を総合的に判断し合格者を決定します。実技試験は一次試験として「鉛筆素描」を行い、一次入試合格者のみに、二次試験「着彩写生」を課します。

詳細については今後発行する『東京藝術大学学生募集要項』、または
藝大 HP (www.gaidai.ac.jp) の更新情報を確認してください。

日本画専攻 入試の出題について



●学部入試 第一次実技試験 出題(12時間)

二日間で鉛筆素描一枚を完成させなさい。
※石膏像は二体以上描くこと。
画面は縦に使っても横に使っても構いません。

1日目 9:00～12:00 12:30～15:30(昼食時間 12:00～12:30)
2日目 9:00～12:00 12:30～15:30(昼食時間 12:00～12:30)

観察力、構成力や基礎的な描写力の有無を判断するための出題である。
テーブルの上に背中合わせに3体の石膏像(ヘルメス)を配置し、そこから2体以上を選択して構成することで、対象を切り取り画面に構図する考え方、空間認識力、また絵画としての意識を持って全体のバランスを捉えられているかを評価の対象とした。

●学部入試 第二次実技試験 出題(12時間)

以下、すべてのモチーフを構成して着彩写生すること。
モチーフの画用紙・色画用紙にモチーフのクレヨンを用いて自由に描画し、それもモチーフの一つとすること。

●あせみ枝葉×1 ●あすなろひば枝葉×1 ●リンゴ×1
●ゆず×1 ●アボカド×1 ●薪×2 ●ベニヤ板×1
●アルミホイル×1 ●しゅろ縄×1 ●絵皿×1
●画用紙・色画用紙×3(白、わかくさ、黒 各1)※
●クレヨン×3(赤、青、黄 各1)※

※画用紙・色画用紙、クレヨンについての注意・禁止事項
・描画内容は自由だが、画用紙・色画用紙3枚全てに描画すること。
・クレヨンは全ての色を使用すること。但し、各紙に全色が使われていなくても構わない。
・クレヨンはモチーフの画用紙・色画用紙以外に使用してはいけない。
・解答用紙(パネル張りの着彩用紙)にクレヨンを使用することを禁止する。
ほか、注意・禁止事項あり。

1日目 9:00～12:00 12:30～15:30(昼食時間 12:00～12:30)
2日目 9:00～12:00 12:30～15:30(昼食時間 12:00～12:30)

各自がモチーフを組むことにより、構成力・出題意図をどのように解釈したかを見る。

高さを抑えた出題により、平面上に展開するモチーフ間の主従関係を自ら設定する絵画性や構成能力を判断する。モチーフの一部に受験生本人の描画を加える課題により絵作りや発想力の能力を評価する。平面上の位置関係を見る力、空間認識能力、明度・彩度を含む色彩感覚を持ち、それらを表現する力があるかを判断するための出題である。モチーフそのものの実感や、質感等の様々な違いが描き分けられた上で、全体のバランスがとれているかも大切な評価基準である。



制作風景



絵具講義(1年)



絵因果経模写(2年)

菊制作

カリキュラムについて

日本画専攻は作家及び美術に関わる諸分野での指導的人材の養成を目標としています。これを実現するために本専攻における研究教育は現代絵画としての創造性の追求と同時に、わが国の美術の伝統と精神を継承し、これを発展させることを主軸に捉えています。

主な授業科目としては、人物・風景・静物・動植物画、版画・壁画の制作、古典模写、人物素描、材料研究、古美術研究旅行、写生旅行等があり、課題別に定められた期間で履修していきます。学部においては、1・2 学年を基礎課程と位置づけ、伝統的な技法の習得と造形・表現力を養うことを目指します。3 学年以降の発展課程では、自由課題を主に前述の事項をさらに前進させ、最終の 4 学年では集大成となる大作を制作し卒業制作展で発表します。

日本画専攻 年間カリキュラム

【前期】

	4月	5月	6月	7月	夏季休業
1 年	植物（百合）	植物（菊）	隨身庭騎絵巻 模写	風景制作 50号	
2 年	絵因果経 模写	東北写生旅行	風景制作 50号	人物制作 50号	
3 年	版画・壁画集中講義	人物制作 50号	風景制作 50号	自由制作 50号	
4 年	自画像 15号	自由制作 100号程度	自由制作100号以上		

【後期】

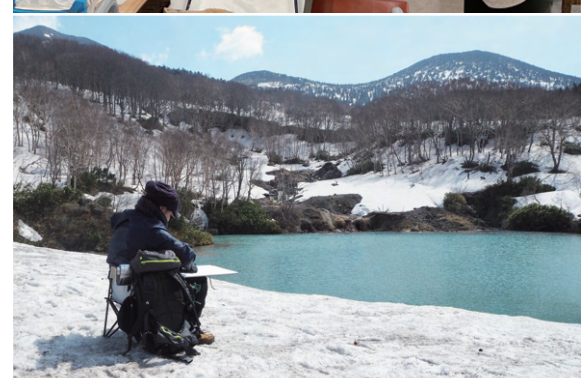
	10月	11月	12月	冬季休業	1 月	
1 年	人物制作 30号	静物制作 50号	動物制作 50号		自画像(絹本) 15号	
2 年	源氏物語絵巻 模写	自由制作 50号	風景制作(建造物) 50号		自由制作(絹本) 30号程度	
3 年	自由制作	古美術研究旅行	自由制作		自由制作	
4 年	卒業制作				自由制作	卒業制作展

【材料講義】

絵具講義
筆講義
和紙講義
絹本講義

箔講義（平押し）
箔講義（切金・砂子）
裏打ち講義（模写）
裏打ち講義（絹本）

裏打ち講義（150号）
絵画講義
日本画材料講義



制作風景
古美術研究旅行(3年)
箔講義(2年)
裏打ち講義(4年)
東北写生旅行(2年)
卒業制作展(4年)

制作風景



学部 4 年在学
城田 峻吾

学部 3 年次は自由制作の課題が増えた。

同じクラスには上手い人がたくさんいる。デッサンも日本画も達者な人ばかりだ。自由制作の課題の中、みな従来の日本画から発展させ新しい手法や作法を見つけ出していた。頭の回転の遅い私は講評会で聞いてばかりで、話に追いつくのに精一杯であった。その中で焦りを感じながら制作していた。そのときに支えられたのは、学友は言うまでもないが大学の図書館にある画集や作家のエッセイであった。舟越保武や高村光太郎、福井爽人の言葉が自分のやるべきことを明瞭にした。難しい学問的なことは私には理解が及ばないが、作家の言葉は不思議ですっと入ってきて心を軽くしてくれた。

ここまで熱を持って制作に取り組めたのはこのアトリエやクラスメイトのおかげだと思う。良いクラスやアトリエに恵まれたと感じている。



「マルチラブ」 F100号 2022年 自由制作

学部3年在学
今本 章



藝大に合格して、僕は目標を見失う怖さを感じていました。しかし、ゴールテープのすぐ先に、スタートラインが待っていました。

岩絵具の扱いに慣れず、なかなか思い通りに描けない1年間。学部2年になって、少しずつコントロールできるようになってきました。すると今度は絵作りの難しさに直面しました。

うんうんと唸りながら描いた絵も、先生方はいとも簡単に改善点を見つけるので、僕はその手があったかと感服してばかりです。教室では、絵に真摯に向き合う同級生に囲まれて、良い刺激を貰っています。そんな藝大での制作環境に、僕は日々感謝しています。

この作品は、学部2年の終わり頃に描いた作品です。友人一家に連れて行ってもらったレストランの風景を描きました。



「潜む熱」 F50号 2022年 自由制作



「あたたかい思い出」 F50号 2022年 自由制作

大学生活は個性あふれる同級生と現役の作家である先生方に囲まれて絵が描ける環境なのでとても貴重な日常になると思います。学部2年生までは伝統的な日本画材に触れながら基礎的な課題をこなし、一つ一つの作品を丁寧に作り上げていくことで表現の幅がぐんと広がりました。課題ごとに開かれる研究会では先生方の考えと自分の中でいいなと思えるものを咀嚼して自分の表現にしていくことの難しさ大切さを学んでいます。

また、日本画にだけ触れるのではなくさまざまな経験が積める様にカリキュラムが組まれており、その経験によって広い視野を持つことができるようになります。毎日どこかで美術に触れられる大学なので興味のあるものについて学べて、一見すると日本画とは関係のないようなことが自分の制作に活きてくると思います。

これからも自分と向き合って、ここでしか味わえないような刺激を受けながら制作を続けていきたいと思っています。



学部3年在学
中原 玲奈

学生からのメッセージ STUDENT's VOICE

修士1年在学
中島 舞



卒業制作は以前訪れた島の植物たちをモチーフに描きました。

私は学部2年の頃から植物を主にモチーフとして選んできました。私の絵は、些細な感情の機微から表現が生まれることが多いのですが、それらとの親和性が高いことや、造形的な魅力があるからです。

150号の卒業制作は、描ける環境自体が貴重なものであり、初めて扱う大きな画面は、とても勉強になりました。

学部4年間は、自分にとっての絵の魅力とはなにかをじっくりと研究できる良い期間になりました。

大学には家では描けないような大きな絵を描けるアトリエがあり、地方から上京して、地元では出来なかった刺激的な経験ができたり、それぞれの美意識を持った友人達に出会えました。経験というのは表現にとって欠かせないものだとは個人的には思っていて、それらが手に入る環境にいられたことは非常に良い体験だったと感じています。



「火星人の夢」 F150号 2023年 卒業制作

進路について

研究を深めるため、大学院修士課程へ進学する学生が多いですが、教職に就く者、就職を希望する者、様々です。

作家として個展・公募展・グループ展等で自作品を発表し、美術界の第一線で活躍している者、小中高等学校、国内外の美術・教育系大学の教員、美術予備校などの講師に採用される者も多数います。また近年、国費留学・私費留学生として海外へ留学する者も多くなっています。

日本画家
石原 孟



現在は個展、グループ展で作品発表を行なっています。
自分の生活の変化とも重なり描く時間は限られてくるものですが、4年間で学んだ基礎に支えられなんとか続けられています。

日本画制作では小下図を作る大下図を作る等、何層にも重なる作業があります。絵の具を作ること一つとっても少し時間がかかります。過程を省こうとしますが意外と上手くいかない。すぐに答えが出ない、じっくり絵と向き合い理解を深めていく必要があるようです。日本画科の4年間で学んだことの一つです。また大学での同級生との関わりや、先生方との関わりは今も私の制作に影響しているものです。

4年間の集大成である卒業制作は途中でどう完成していいか分からなくなり、只々黒く塗りつぶしたような物になってしまい苦しいものでしたが、振り返るとあれだけ長い時間一枚の絵と向き合うことは貴重な経験でした。対象との関わり方などそこから今の制作スタイルが始まったような気がします。



「giraffe」 F100号 2019年 第8回東山魁夷記念日経日本画大賞展

卒業生からのメッセージ
Voices of Graduates



©2013 プロジェクトラブライブ!
©2017 プロジェクトラブライブ!サンシャイン!!
©2022 プロジェクトラブライブ!虹ヶ咲学園スクールアイドル同好会
©2022 プロジェクトラブライブ!スーパースター!!
©bushiroad



株式会社バンダイナムコフィルムワークス
背景美術
山田 卓人

学部、大学院を卒業後、現在の会社で主にアニメーションの背景美術の制作をしています。背景美術の制作はデジタルで描くことが多く、複数のスタッフで仕事を分担し合い1つの作品を作り上げるので、1人で全て行う日本画制作とは道具も環境も全く異なります。しかし大学で学んだ描く、見る、考える力は現在の制作にも通ずるものがあり、大学ではそれらを高いレベルで学ぶことができました。藝大は出身や年齢、価値観が多様な生徒が多く在籍しているので彼らの作品や、何気ない会話からいくつもの新しい発見があり価値観の幅を広げることができる環境です。6年間の大学生活で得たものは今の制作の武器になっています。

卒業後の
主な進路先

日本画家

教育職
学芸員
ギャラリー
出版社
漫画家

オリエンタルランド

海洋堂

コナミ

コーエーテクモ

Cydesignation

SONY

SEGA

宝塚舞台

DeNA

凸版印刷

任天堂

バンダイナムコフィルムワークス

フロムソフトウェア

ポリフォニー・デジタル

など